

グアテマラ政情（2012 年 9 月）

平成 25 年 2 月 5 日
在グアテマラ日本国大使館

1. 概要

- 国会審議に大きな進展が見られない中、与党愛国党（PP）の党内対立が深刻化し、新たに同党の副議員団長2名を選ぶ事態となった。
- ペレス・モリーナ大統領が第67回国連総会に出席し、一般討論演説において現行の麻薬政策に関する見直しを提案したところ、メキシコ及びコロンビアの両大統領が右提案に対する支持を表明した。

2. 内政

（1）国会の動向

（ア）3日、ペレス・モリーナ大統領は、国会審議に大きな進展が見られない中、汚職防止法案（別名：不正蓄財取締法）、選挙・政党法の改正、透明性確保に関するパッケージ法案、憲法改正、新規借款・国債発行の承認が国会における優先的議案である旨発言した。また、同大統領は5日、与党愛国党（PP）に対し国連等の国際機関及び欧米諸国等の各国機関からも早期承認が望まれている汚職防止法に関し、国会で速やかに承認するよう求めた。

（イ）11日、審議に進展が見られない汚職防止法案（別名：不正蓄財取締法）に関し、アミルカル・ポップ透明性委員会委員長（ウィナック（Winaq）党）議員の提案により同法案の修正の可能性について分析を行うための特別委員会が設置された。

（ウ）18日、112名の議員が本会議に出席したにもかかわらず、国会執行部メンバーの欠席により審議は行われなかった。20日、野党議員の間からは、国会議員及び国会執行部メンバーの本会議欠席あるいは途中退席により約3週間半以上に亘り国会審議が停滞しているとの批判が噴出した。

（エ）23日、汚職防止法案見直しのための特別委員会のメンバーは、本法案の修正を要求する議員を国会に召集し、本法案の26項目の修正の中、25項目について右修正を支持する議員の氏名が明確に記載されておらず署名だけがなされている上、同署名も判読しづらいとの理由から同修正は認められない旨指摘した。

（オ）24日、汚職防止法案の25項目の修正に関する見直しを行うため、与野党の全議員団長14名が招集されたが、5名の議員団長しか集まらず、右状況の打開には至らなかった。他方、25日の本会議には120名の議員が出席したものの、汚職防止法案に関する審議は行われず、中米諸国とメキシコの自由貿易協定の発効に関するイニシアティブが第2読解に提出されるに留まった。

（２）与野党の動向

（ア）18日、与党愛国党（PP）は、「ペ」大統領、シニバルディ通信インフラ住宅大臣、バルデッティ副大統領の各グループの対立が深まる中、同党議員37名がアレクサンダー・カスティージョ同党副議員団長（「バ」副大統領派）の解任を要求している問題に関し会合を行った。同会合において、「カ」副議員団長の在留が決定すると共に、党内の融和を促すためにホセ・フェルナンデス議員及びジミー・ベン議員（両議員とも「ペ」大統領派）を新たに副議員団長に任命した。

（イ）30日、国民革新党（UCN）の創設者の一人であるバウディージョ・イチョス議員が同党からの離党及び自由民主会派（Lider）への移籍を発表した。

（３）銀行監督庁（SIB）長官の決定

1日、ペレス・モリーナ大統領は、ラモン・トバル氏（SIB局長を務めた経験あり）を新SIB長官に任命した旨発表した。なお、ビクトル・マンシージャ前SIB長官は一身上の理由により7月25日に辞職。

（４）CICIGの5年間の活動報告

6日、ダラネセ・グアテマラ無処罰問題対策国際委員会（CICIG）代表は当国における過去5年間の活動報告を国連本部に提出した。同報告書において、「ダ」代表は当国には同委員会の信用を失わせるような中傷行為がある点を指摘しつつ、当国最高裁判所（CSJ）の判事数名が麻薬犯罪組織と癒着（Coquetear）関係にあると繰り返し批判した。

（５）通信インフラ次官の辞任

16日、シニバルディ通信インフラ住宅大臣は、ルイス・アドリアン・ルイス次官が一身上の都合により1ヵ月半前に辞職したところ、18日、ダグラス・ゴンザレス氏（同大臣顧問）をルイス次官の後任に任命した旨発表した。なお、ルイス前次官はバルデッティ副大統領が代表を務める副大統領室透明性調整局（secretaria de control y transparencia）からマネーロンダリングの疑いを問われていた。

（６）治安関係

（ア）11日、オスワルド・アレバロ国会財務委員会委員長（愛国党（PP）議員）がグアテマラ市内11区で襲われたが無傷であることが分かった。

（イ）12日、「ペ」大統領は、犯罪発生率の削減を目指し、暴力・犯罪が集中する地域の一つであるグアテマラ市18区に治安任務部隊（Fuerza de Tarea de Seguridad Ciudadana）を配備した。

（ウ）22日、当地「エル・ペリオディコ」紙は、8月に国連開発計画（UNDP）が発表した報告書によれば当国の女性に対する暴力の発生率が、中南米諸国でメキシコ、チリ、ブラジ

ルに次いで4番目に多いことが明らかとなった旨報じた。

(エ) 22日、2012年1月～8月に外国人観光客により国家文民警察 (PNC)に提出された窃盗被害の届出数が75件 (前年同時期28件) に上り、同被害が増加している明らかとなった。

3. 外交

(1) ペニャ・ニエト次期メキシコ大統領のグアテマラ訪問

17日午前、ペニャ・ニエト次期メキシコ大統領が当国を訪問し、ペレス・モリーナ大統領と会談を行い、治安、移民及び通商問題等につき協議した。当初、ペニャ・ニエト次期大統領が中米5ヵ国の大統領との会談を希望していたことから、ペレス・モリーナ大統領が当国における同会談の実現に向けて各国大統領に声を掛けたが、フネス・エルサルバドル大統領が同会談は現在のSICA議長国であるニカラグアで行われるべきであると疑義を呈したところ、ペニャ・ニエト次期大統領側が中米側の右事情に鑑み、同会談を中止すると発表した。しかしながら、17日、ペニャ・ニエト次期大統領はグアテマラとの二国関係につき協議するため、当国を訪問すると改めて発表した。なお、グアテマラはペニャ・ニエト次期大統領にとって大統領選挙後の最初の外遊先となった。

(2) 「ペ」大統領の米国訪問 (第67回国連総会出席)

(ア) 27日、「ペ」大統領は第67国連総会において一般討論演説を行い、国連の加盟国に対し、国際麻薬3条約についての見直しを提案。カルデロン・メキシコ大統領及びサントス・コロンビア大統領が右提案に賛同。他方、25日、カレーラ大統領府企画庁 (SEGEPLAN) は、国連本部において、フィンランド、ニカラグア、米国、ニュージーランド及びその他メディアに対し、グアテマラが提案する麻薬不処罰化及びマリファナの合法化に関する新たな道筋について発表した。

(イ) 24日、「ペ」大統領はモレノ IDB 総裁と会談し、メキシコ国境からパナマまでの太平洋岸における新規道路建設及び水力発電計画等につき協議した。また、同日、クリントン元大統領 (クリントン基金総裁) 及びサックス国連事務総長特別顧問とも会談し、「飢餓ゼロ」プロジェクト等につき協議した。

(ウ) 25日、「ペ」大統領はインスルサ米州機構 (OAS) 事務総長と会談し、本年4月にコロンビアで行われた第6回米州サミットの際に提案されたOASによる対麻薬政策の見直しに関する科学的調査の進捗状況に関し協議した。

(エ) 26日、「ペ」大統領は、潘基文国連事務総長と会談した。同会談において、潘事務総長はペレス・モリーナ大統領に対し、グアテマラ無処罰問題対策国際委員会 (CICIG) の活動に対する同政権の全面的な支援に感謝の意を示すとともに、当国の国際刑事裁判所 (ICC) ローマ規定の批准に対し祝辞を述べた。

(オ) 26日、「ペ」大統領は、米州評議会 (Council of the Americas (COA)) に出席し、当国政府の各種目標について発表した。

(3) オルギン・コロンビア外相の当国訪問

4日、オルギン・コロンビア外相が当国を訪問し、カバジェロス外相と会談を行った。同会談において、「オ」外相は麻薬対策においてグアテマラを支援する旨約束すると共に、同問題の解決のための代替案の模索について対話を行う用意がある旨述べた。

(4) CICIGの活動延期の要請

5日、「バ」副大統領は、グアテマラ無処罰問題対策国際委員会(CICIG)の任期を2015年9月まで2年間延期するよう国連本部に対し要請した。

(5) 第2回グアテマラ・エルサルバドル二国間委員会会合

11日及び12日、エルサルバドルにおいて開催された二国間委員会にカバジェロス外相が出席し、治安、移民、経済、協力、環境及び天然資源の問題等につき協議した。同会合において、マルティネス・エルサルバドル外相は、当国が米国政府に対し要請している在米グアテマラ人に対する一時的身分保障(TPS)の付与についての支持を強調すると共に、当国及びベリーズ政府が両国の国境問題のICJ付託を問う国民投票の実施を決定したことに関し支援を表明した。

(6) グアテマラ・ベリーズ国境問題

29日、当国外務省ベリーズ委員会のメンバーは、ベリーズ政府が両国国境地域における暴力事件に対し十分な協力を行っていないとし、同国政府に対し右協力を要請することを決定した。